

# 伊丹ルーテル教会 聖霊降臨後第四主日礼拝

## 2021年6月20日

**前奏：**

**聖名による挨拶**

**牧師：**父と御子と聖霊の御名によって。アーメン。

**会衆：**アーメン。

**牧師：**主よ、わたしのくちびるを開いて下さい。

**会衆：**そうすれば、私の口はあなたのほまれを告げるでしょう。

**一同：**父と御子と聖霊の神に、栄光が、初めにそうであったように、  
今も、そしてとこしえまでもありますように。アーメン。

**招きのことば：詩編 107 編 1-3,23-24,28-32 節**

「恵み深い主に感謝せよ、慈しみはとこしえに」と主に贖われた人々は唱えよ。主は苦しめる者の手から彼らを贖い、国々の中から集めてくださった、東から西から、北から南から…  
彼らは、海に船を出し 大海を渡って商う者となった。彼らは深い淵で主の御業を驚くべき御業を見た…

苦難の中から主に助けを求めて叫ぶと 主は彼らを苦しみから導き出された。主は嵐に働きかけて沈黙させられたので 波はおさまった。彼らは波が静まったので喜び祝い 望みの港に導かれて行った。主に感謝せよ。主は慈しみ深く 人の子らに驚くべき御業を成し遂げられる。民の集会で主をあがめよ。長老の集いで主を賛美せよ。

**罪の悔い改めと赦しのことば**

**会衆：**私たちは生まれつき 自分中心 わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。

思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。 (短い黙祷を持ちましょう)

**牧師：**何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子 イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。

ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。アーメン。

**使徒信条**

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

**われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。**

主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、  
ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、  
陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、  
父なる全能の神の右に座したまえり。  
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

**我は聖霊を信ず**、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、  
からだのよみがえり、かぎりなきいのちを信ず。**アーメン。**

**祈り**

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、  
あなたは私たちが困り果てて苦しみの中にいるとき、今は恵みのとき、救いの日です、とおっしゃっていただきます。神様、感謝をいたします。そして何度神様に助けていただいても、私たちは喉元過ぎれば熱さを忘れるというように、あなたのご恩を忘れてしまいますが、あなたは今日もそんな私たちを見捨てないで顧みていてくださることをありがとうございます。私たちをイエス様の十字架と復活によって神様の子どもにしてください、あなたのかかわらない愛と憐みを喜んで歩むものとしてくださいました。今週もあなたの約束のみ言葉に信頼して歩みます。どうぞ導いてください。今朝もイエス様の愛と憐れみに心をとめさせてください。そこに赦しと命があるからです。

新型コロナウイルスの感染拡大によって今多くの方々が苦しみの中におられます。私たちも毎日こわくなります。緊張します。どうぞ、助けてください。

病気の人のお世話をしたり、生きていくために必要なものを整えて働いてくださる方々が苦勞しています。お支えください。

今週もビデオやプリントによって、私たちは別々のところで同じ礼拝にあずかります。このために力になってくださった方々を祝福してください。

私たちはよみがえられた主イエス様のみ言葉を聴きます。どうぞお語りください。

このお祈りを、イエス様の御名によっておささげいたします。**アーメン。**

**使徒書：コリントの信徒への手紙第二 6章 1-13節**

わたしたちはまた、神の協力者としてあなたがたに勧めます。神からいただいた恵みを無駄にしてはいけません。なぜなら、「恵みの時に、わたしはあなたの願いを聞き入れた。救いの日に、わたしはあなたを助けた」と神は言っておられるからです。今や、恵みの時、今こそ、救いの日。わたしたちはこの奉仕の務めが非難されないように、どんな事にも人に罪の機会を与えず、あらゆる場合に神に仕える者としてその実を示しています。大いなる忍耐をもって、苦難、欠乏、行き詰まり、鞭打ち、監禁、暴動、労苦、不眠、飢餓においても、純真、知識、寛容、親切、聖霊、偽りのない愛、真理の言葉、神の力によってそうしています。左右の手に義

の武器を持ち、栄誉を受けるときも、辱めを受けるときも、悪評を浴びるときも、好評を博するときにもそうしているのです。わたしたちは人を欺いているようでいて、誠実であり、人に知られていないようでいて、よく知られ、死にかかっているようで、このように生きており、罰せられているようで、殺されてはおらず、悲しんでいるようで、常に喜び、物乞いのように、多くの人を富ませ、無一物のようで、すべてのものを所有しています。コリントの人たち、わたしたちはあなたがたに率直に語り、心を広く開きました。わたしたちはあなたがたを広い心で受け入れています、あなたがたは自分で心を狭くしています。子供たちに語るようにわたしは言いますが、あなたがたも同じように心を広くしてください。

### **福音書：マルコによる福音書 4章 35-41 節**

その日の夕方になって、イエスは、「向こう岸に渡ろう」と弟子たちに言われた。そこで、弟子たちは群衆を後に残し、イエスを舟に乗せたまま漕ぎ出した。ほかの舟も一緒であった。激しい突風が起り、舟は波をかぶって、水浸しになるほどであった。しかし、イエスは艫の方で枕をして眠っておられた。弟子たちはイエスを起こして、「先生、わたしたちがおぼれてもかまわないのですか」と言った。イエスは起き上がって、風を叱り、湖に、「黙れ。静まれ」と言われた。すると、風はやみ、すっかり凪になった。イエスは言われた。「なぜ怖がるのか。まだ信じないのか。」弟子たちは非常に恐れて、「いったい、この方はどなたなのだろう。風や湖さえも従うではないか」と互いに言った。

### **説教「なぜ怖がるのか。まだ信じないのか」**

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、み言葉をとりつぎます。

イエス様は、さあ、向こう岸へ渡ろう、と弟子たちに言われ、浜辺に群がる群衆に別れを告げて数隻の舟で沖へこぎだしました。エルサレムの北のガリラヤ地方のガリラヤ湖という、周囲15kmほどの、魚のよく取れる淡水湖です。イエス様の弟子になったヤコブとヨハネ、アンデレとペテロはかつてここで漁師をしていました。さわやかな船旅のはずでした。そのとき強い突風が起りました。たちまち舟は大揺れになり、水をたくさんかぶって、舟が沈むかもしれない緊急事態となりました。もと漁師たちも命の危険を感じました。

そのときの弟子たちのありのままの様子が書かれていましたね。弟子たちはこれまでイエス様の権威ある働きを目の前で見してきました。イエス様は神の子の権威をもって聖書を教え、悪霊を追い出し、病いをいやして、多くの人々の苦しみにむきあって神の子としてみわざを見せてくださいました。そのイエス様が舟におられるのに、おぼれてしまう、もう助からない、とても不安になったのです。イエス様がにおられるのに不安になる、ということは、私たちにも覚えがありますね。教会では神様の力を感じる、とか、自分の祈りの部屋では神の国の力に満たされるとしても、家や、職場や、学校や、近所の人たちの間で何か問題があったら、そこに

もイエス様がおられることをすっかり忘れて、もう助からないかもしれない、と一気に不安になってしまったことはないでしょうか。

もしかしたら弟子たちは嵐の対応に気がとられて、イエス様がそこにおられたことにもしばらく気づかなかったかもしれません。弟子たちはイエス様が舟の艫(とも)の方でなんと嵐の中でお昼寝をしておられることに気づきました。けれどもそれを見たら弟子たちは、ああイエス様がいてくださった、心配することはない、とは思えなかったようです。嵐のあまりの恐ろしさに彼らはパニックになっていて「先生、わたしたちがおぼれてもかまわないのですか」と必死で揺り起こしています。いつものイエス様への信頼はどこに行ってしまったのでしょうか。そうですね、そもそも舟が沈んだらイエス様も一緒に沈んでしまいます。弟子としてイエス様を守ることを考えないで、私たちがおぼれてもかなわないのですか、見殺しにするのですか、と自分中心に叫んでいるのは滑稽でさえありますね。心の余裕がないときの弟子たちの本音がでてきます。この姿も私たちにもどこか覚えのある姿かもしれません。

さて、イエス様はすぐに起きてくださいました。そして風に対して「黙れ」と言われ、湖に対して「静まれ」と命じられました。聖書は、そうするとすぐに風はやみ、湖はすっかり凪になったと記しています。そして弟子たちに「なぜ怖がるのか、まだ信じないのか」と告げられたのです。

弟子たちはどぎもを抜かれたようですね。風や湖もひとことで従わせ、さあ一つと静かになった思いもよらないイエス様のほんとうの権威に圧倒されました。この方はいったいどういう方なのか、とあらためて恐ろしさを感じました。教えの権威、悪霊に対する権威などを見て、それまで漠然とイエス様のことを神の子の権威をお持ちの方とと思っていましたが、思いをはるかにはるかに超えた大自然まで従う驚くべきイエス様の権威に、弟子たちの心が追い付いていません。

マルコの福音書ではこのような素朴で未熟な弟子たちがイエス様に丁寧に育てられています。イエス様は何度も重ねて弟子たちに、まだわからないのか、悟らないのか、と言われました。例えば8章17節からのところでは、なぜこれまで見聞きしてきたことで判断ができないのか、と言われていました。五千人の人々をイエス様が五つのパンを割いて養われたとき、弟子たちが残りのパンくずを集めたら十二の籠にいっぱいになりました。四千人の人を養ったときは残りは七つの籠にいっぱいになりました。なぜ神の御子でしかできないそのような御業に参加した経験があるのに、弟子たちはイエス様が神の子という証拠を見せてほしいと迫る人々にきちんと確信を伝えることができなかったのです。

イエス様はあるとき小さな者のひとりでもつまずかせたら大きな石臼を首にかけられて海に投げ込まれるほうがいい、と言われました。イエス様はそれほど小さな者を大切にしておられるのです。弟子たちはそのお話を聞いたあとに、小さな子どもたちをイエス様のところに連れてきた親たちを叱って、イエス様の邪魔をしないように、と追い払おうとしました。イエス様は

その弟子たちを叱りました。そして神の国はこのような人々のものだ、と言って子どもを抱き上げ祝福されました。

同じ湖の上でもイエス様は重ねて弟子たちを鍛えられました。しばらくして今度はイエス様が乗っていない舟で弟子たちが湖の真ん中まで漕ぎ出したとき、またもや逆風に会って苦しみました。助けるためにイエス様が水の上を歩いて近づいて来たら、弟子たちは、幽霊だ、と恐れしました。イエス様が神の子救い主であるということは弟子たちにとってはあまりにもおおきなことで、すぐに何か起きているのか悟ることができないほどに心が鈍くなっていたのです。

私たちはいやなこと、苦しいことが何もおこらないことが幸せだと思いがちです。神の御子のイエス様を信じていたら、たとえ湖をわたっても嵐に会うことはなくなる、と思いたいのです。しかし、現実はそのようではありません。いやなこと、苦しいことは起こります。また私たちは自分の力が成長していると思いたいのです。困難な人生の嵐に直面しても、それをしずめることができる自分の力を持っていると思いたいのです。しかし現実はそのようではありません。人の力は頼りになりません。

むしろイエス様を神の子と信じて歩むなら、あなたにどんなことがおこっても、イエス様があなたとともにいてくださるのです。そしてその権威あるイエス様があなたのことを大切にしてくださいることに信頼できるのです。

あるとき金持ちの信仰深い青年がイエス様を訪ね、これまでの人生でしっかり正しく歩んできました、と言いました。イエス様はあなたに足りないことがひとつある、持ち物売り払って貧しい人々に与えなさい、と言われると、悲しみの内に立ち去っていきました。たかさんのお金や財産を持っていたからです。誰にもそんなことはできません。弟子たちはそれならいったい誰が神の国に入れるでしょうか、と尋ねました。人にはできないが、神にはできないことがない、とイエス様はお答えになりました。

人にはできないが、神にはできないことがない。私たちが心をしっかりもって、自分を強くして、悪を憎んで、正義を愛して、と力んでも限界があります。人にはできない、と断言されています。むしろ私たちは、神様にはできる、ということに信頼を置くことができます。苦しいとき、いやなことがあるときに神様に信頼できるのです。ですから、私たちは自分の弱さを認めます。自分の心の根っこにある自己中心であること、そのままでは神様に喜んでいただくことも、愛されることも、苦しみを乗り越えていくこともできないことを素直に神様の前に認めます。そして、そのようなあなたに失望せず、あなたを離れず、あなたを大切にあなたにいのちを与えて育ててくださるイエス様に信頼するのです。

このようにして弟子たちは信仰を育てられていきました。そして、ペテロが代表して、イエス様、あなたこそ神の子、救い主です、とイエス様に告白すると、イエス様はご自分が救い主として人々のために苦しみを受け、十字架で死に、そしてよみがえるという予告をはじめられました。このことも二度、三度と弟子たちに語り聞かせていました。イエス様はご自分の権威を

人々から仕えられるために用いないで、人々に仕えるためにお用いになります。人々のかわりに、人々が罪の力から解き放たれるために、身代金のようにしてご自分のいのちを与えるために来られたのです。

さて、残念なことに弟子たちはらいざという大切なときに、怖くなってしまい、信じることができなくなってしまいました。イエス様が兵隊に捕らえられるというときに、みんなあつげなくイエス様を見捨てて逃げてしまった、とマルコの福音書 14 章 50 節に書かれています。イエス様は捕らえられて大祭司やその下役から侮辱を受けます。総督や兵隊からはずかしめられます。ついに民衆にも見捨てられ十字架にかけられました。左右両側の十字架につけられていた犯罪人たちからも、自分を十字架から救えないのか、とののしられました。ついにイエス様は父なる神様に「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」と叫びました。そして息を引き取りました。

自己中心でわがままな、もろくて力のない私たちのかわりに、イエス様は十字架で神様からも人々からも見捨てられてくださいました。私たちが本来見捨てられるところを、イエス様がかわりに見捨てられてくださいました。それは私たちがもう見捨てられることがないためです。神様はイエス様のゆえに、決してあなたを離れずあなたを見捨てません。

そのイエス様はあの青年のためにも、自己中心でものわがりのわるい弟子たちのためにも、これまで何度助けられてもパニックになったら全部飛んでしまっ、もうだめだ、見捨てられたと絶望する私たちのためにも、身代わりになって神様に見捨てられてくださいました。ですから私たちはイエス様の死にあずかる洗礼によって罪を赦されて、イエス様の復活にあずかる同じ洗礼によってあたらしいいのちをいただきます。

お弟子のひとり、ペテロは、私はイエス様のことを知りません、と言って、イエス様を裏切り、イエス様を見捨ててにげてしまいました。ペテロは怖かったのです。まだ信じることができませんでした。そんな自分の姿に失望して姿をみせなくなってしまったペテロのためにも、イエス様はかわりに神様に見捨てられてくださいました。イエス様はよみがえられたあと、ペテロのことを覚えておられました。ほかの弟子たちに託して、わたしはガリラヤへ先にいっているからそこで会おう、とペテロに伝言されました。舟の中で嵐におびえたときも、イエス様を見捨てた自分に絶望した時も、イエス様はペテロを見捨てません。赦し、いのちを与え、いのちを育ててくださいます。

今週もあなたを見捨てず、あなたを赦していのちを与え、そして信仰を鍛え育ててくださるイエス様に信頼しましょう。あなたが自分に失望しても、あなたを見捨てないイエス様に信頼しましょう。今週も神様に感謝をしましょう。人々には失望したり見捨てたりせず、人々とのつながりを精一杯大切にしましょう。自分のわがままを抑えましょう。素敵な一週間をお過ごしください。

マルコ 4:40 イエスは言われた。「なぜ怖がるのか。まだ信じないのか。」

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いを、キリスト・イエスにあってまもってくださいます アーメン

**讚美歌 514 番 「弱き者よ、我にすべて」 1, 3, 4 節**

1 弱き者よ、我にすべて まかせよやと 主はのたもう。

※ 主によりて あがなわる、わが身の幸はみな主にあり

3 我に何の いさおし あらん、ただ主の血に きよくせらる ※

4 死の床(とこ)より 起くるその日、勇みうたわん 主のみいさお ※ **アーメン**

**主の祈り**

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たせたまえ。みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用の糧(かて)を今日も与えたまえ。われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり  
アーメン

**頌栄の讚美歌 543 番**

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊の力よ、あぁみ栄えよ。 **アーメン**

**祝福のことば**

仰ぎこい願わくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき御交わりが、それぞれのところで共に礼拝にあずかっておられる一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、ゆたかにありますように。 **アーメン**

**アーメン三唱、後奏**